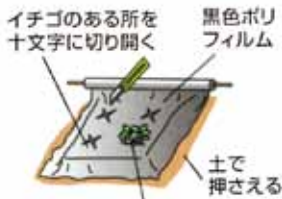
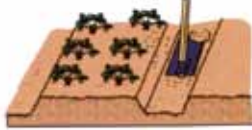


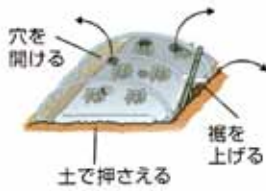


# 越冬後のイチゴの管理

肥料をばらまいた上に土を掛ける



切り開いた所からイチゴの葉を全て出す



薬剤散布は葉の裏からも丁寧に

秋に植え付けた路地栽培のイチゴは、冬の本格的な寒さの下で体を縮めて休眠状態にはいつていますが、厳冬期を過ぎるころ（関東以西の平たん地では2月上旬）から、にわか

ださい。追肥した後で、図のように黒色のポリエチレンフィルムのマルチをします。マルチングすることにより、それから開花、肥大してくる果実に、雨で土が跳ね上がるのを防ぐとともに、地温上昇を図り、雑草を抑制し、さらに地面からの水分蒸発を抑えて乾燥を防ぎ、さまざまな効果が期待できるのです。マルチの手順としては、育っているイチゴの上にフィルムを覆い、風で飛ばされないように、周囲の裾に土を掛け足で踏み付けておきます。そして、イチゴの株で盛り上がっている位置のフィルムに、刃物で切り目を入れ、イチゴの葉を傷めないように丁寧に、全ての葉をフィ

ルム上に出してやります。株元が大きく破れたらその部分を土でおさえておきます。また株間に一握りの土を置き、風によるばたつきを防ぐようにします。この他に、イチゴの収穫時期を早めたい場合は、同時に市販の骨材を立て、フィルムをトンネル状に覆ってやります。これにより収穫を約20日ほど早めることが可能です。トンネルの裾には土を掛け風で飛ばされないようにしておきますが、日中の気温が30度以上に上がらないよう、頂部に穴を開けるか、所々裾を上げて換気をするのを忘れないください。マルチもそうですが、このトンネル掛けも、あまり早く行い過ぎると、咲いた花が低温に遭い、黒変枯死してしまうので、適期を守ることも大切です。イチゴ

が春を感じ、盛んに伸び始めるとナミハダニやアブラムシ、アザミウマ、輪斑病、じゃのめ病などの病害虫が発生しやすくなるので、早めに適応薬剤を正しい使用方法で散布して被害を防ぎましょう。

板木技術士事務所

●板木利隆

## 「JA版農業電子図書館を」つかってみよう!!

当JAでは、病害虫や雑草、農業など生産に関する情報が簡単に検索できる、タッチパネル式の情報端末「JA版農業電子図書館」を窓口相談機能の充実と、迅速な指導や最新情報の提供等、組合員サービスの向上を図るため、下記施設に設置しています。

皆様のご利用をお待ちしております。

- \*設置施設：総合営農経済センター 南部支店
- 片貝営農センター 東小千谷支店
- 千田園芸資材センター 四ツ子支店



病害虫・雑草診断など簡単に操作できます!!  
探したい項目を指でタッチ!!